

はじめに

蔵王を望む山形市の遊学館で平成7年9月21日地域がん登録全国協議会第4回総会研究会が開催されました。全国からの参加者は、100名を越え、盛会のうちに終了いたしました。厚生省保健医療局をはじめ、関係各位の御協力に感謝を申し上げます。

この研究会は平成4年から始められ、地域がん登録事業に携わる多くの方々の貴重な研修の場として、重要な役割を果たしてきました。我が国における地域がん登録のレベル向上に果たしている本研究会の役割は大きく、今後とも関係諸機関の御協力も得ながら、ますます発展するものと確信しております。

第4回総会研究会を終わって、今回初めて諸先生方の御発表の内容を論文集として整備、保存することになりました。このことは、我が国における地域がん登録レベルの一層の向上につながると確信しております。本登録事業に携わっている人の数は、研究会に参加された100名よりはるかに多いわけで、その意味からも研究会の発表内容をまとめ、書籍に残しておくことは大変重要な事と思われれます。また新しく登録事業を開始しようとしている方々への御紹介の意味あいからも意義があります。他方研究者にとっても本書の利用価値は高いと考えられます。

今回の第4回総会研究会では「役に立つがん登録」をメインテーマに高野昭先生に座長の労をお取りいただき、シンポジウムを企画いたしました。地域がん登録には悪性新生物の罹患を測定するという一義的な目的の他に、各分野の多くのニーズに答えて適正かつ有効に利用されるべき使命があります。この意味から「役に立つがん登録」というテーマは選ばれました。悪性新生物の一次予防の効果判定の手段として、あるいは検診の精度管理の中心的な手段として、地域がん登録は極めて重要な情報を提供してくれるものです。さらには疾病対策に関わる諸病因の解析、あるいは医療行政にまで活用されるべく、実用価値の高いものであることが再認識されたシンポジウムであったと考えます。ただし常に心にとどめておくべきことは、これらの有用性は精度の高い地域がん登録によって初めてもたらされるものであるという事実です。

本書の作成に膨大な時間を費やし、校正等にも御協力をいただきました演者の先生方、ならびに協議会事務局の方々に厚く御礼を申し上げますとともに、本書が我が国の地域がん登録事業の発展にお役にたてれば幸いと存じます。

(佐藤幸雄、松田 徹)